

刑事施設及び保護観察所における薬物事犯者に対するプログラムの効果検証結果（概要）

概要：刑の一部執行猶予制度施行（平成28年6月）以降の薬物事犯者に対するプログラムの指導効果を検証するため、対象者の再犯追跡調査及び心理尺度得点の変化に関する質問紙調査を実施した

刑事施設

保護観察所

○ 再犯追跡調査 ⇒ 刑事施設及び保護観察所におけるプログラムの**処遇効果が示唆**された

【概要】

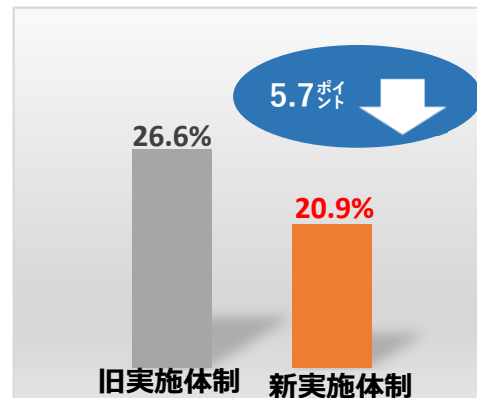
薬物依存離脱指導対象者742名について、出所後2年間の再犯状況を追跡調査し、旧実施体制における再犯率と比較した

※ 再犯 = 刑事施設出所日から2年以内にじゃっ起された薬物事件により、実刑判決を受けて再び受刑したことにより把握

※ 旧実施体制 = 平成25年に出所した標準プログラム改訂前の薬物依存離脱指導対象者593名

※ 新実施体制 = 平成30年11月から令和元年5月までに新プログラム改訂後の薬物依存離脱指導対象者742名

指導対象者全体の再犯率の比較

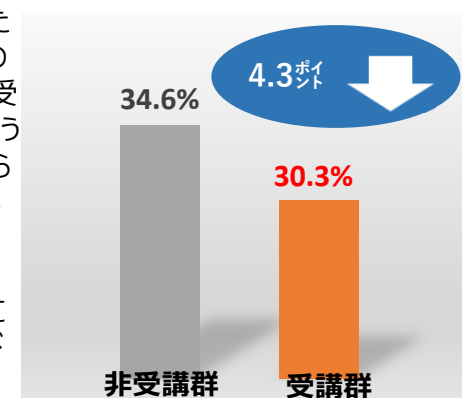


【概要】

平成30年に薬物事犯により保護観察を開始した成人の保護観察対象者4,661名のうち、受講の有無以外の要因が結果に影響を与えないよう、受講群と非受講群の属性や特性等が等質となるように抽出した2,812名について、保護観察開始から令和3年末まで最長4年間の再犯状況を追跡調査し、コアプログラム受講の有無で再犯率を比較した

※ 再犯 = 保護観察中又は保護観察終了後にじゃっ起された薬物事件により保護観察所に再び事件係属したことにより把握

受講群・非受講群の再犯率の比較



○ 心理尺度得点の変化に関する調査

⇒ 刑事施設では、専門プログラムの受講により**薬物依存からの離脱につながる態度等が身に付いた**

【概要】

専門プログラムの受講対象者439名について、受講群225名と比較対照（待機）群214名に無作為に割り振り、受講前後の自記式質問紙尺度得点を比較し、プログラムの受講効果を検証した

※ 比較対照群については、受講群と同時期に質問紙調査を実施

専門プログラムの受講効果

薬物依存の問題を変えたいという変化への動機付け

薬物に対する欲求に
対処できる自信

継続的に治療や援助を
求める態度

薬物を再使用しない
ためのスキル

上記態度やスキルの上昇が確認された

⇒ 刑事施設出所後の保護観察では、**薬物依存からの離脱につながる態度等がコアプログラムの受講前後において比較的高い水準に保たれた**

【概要】

刑事施設から出所した保護観察対象者のうち、コアプログラム受講者73名の受講前後の自記式質問紙尺度得点を比較し、プログラムの受講効果を検証した

コアプログラムの受講効果

薬物依存の問題を変えたいという変化への動機付け

薬物に対する欲求に
対処できる自信

今後、刑事施設と保護観察所の受講状況や地域の医療・福祉機関等による支援の関係等を更に考慮した効果検証について検討するとともに、本検証結果等を踏まえ、より効果的かつ一貫性のある指導を実施するため、プログラム等の一層の充実化を図る